

＜地域のみなさまへ＞ご報告

第212回健康講座を開催しました

去る2024年11月14日(木)14時より、第212回健康講座を開催いたしました。講師は前回に引き続き当院の整形外科医長である岸村裕一医師が務め、「どうなの？人工関節手術 安心して受けてください!」と題し、お話をさせていただきました。おかげさまでたくさんの地域の方々のご参加をいただき、1時間という予定時間があっという間に感じるほど興味深くご聴講いただきました。

今後も地域の方々の健康生活に寄与できるよう、健康講座を定期的に開催していく予定です。また、次回の開催時期などが決定しましたら病院広報誌(ぽっぽ)やホームページ、院内掲示等でご案内させていただきます。ふるってのご参加をお待ちしております。

次回開催予定:3月18日(火)14時～ テーマ「知っておきたい心臓病のサイン ―いち早く気づくため―」

＜地域のみなさまへ＞ご報告

第3回大阪鉄道病院がんサロンを開催しました

2024年11月26日(火)には、第3回目となる大阪鉄道病院がんサロン「ぶらっと」を開催いたしました。当日は、「がん治療に伴う外見のケア」についてミニ講座を行い、日頃感じていらっしゃる思いを自由に話し合いました。多くの方々にお越しいただきましたことあらためまして御礼申し上げます。

また、次年度も行う予定です。ぜひお気軽にご参加ください。



＜地域医療機関のみなさまへ＞活動のご報告

訪問看護ステーションとの交流会を開催しました

2024年10月11日(金)18時より、訪問看護師さんとの交流会を開催いたしました。当日は、訪問看護師より、特定行為研修修了者の活動報告、グループディスカッションなどを通じて意見交換も行うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

ご参加いただきましたみなさまにあらためて感謝申し上げます。次年度もこのような場を設け、ともに地域医療に尽くしてまいりたいと願っております。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <https://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メディカル
ぽっぽ
よりよい医療の始発駅

volume
29
2025.2

「診療科 UPDATE」

血液内科

ドクターインタビュー
医務部長・部長 **高 起良**
Doctor Message
副部長 **間部 賢寛**
副部長 **南野 智**
医 長 **曾我部 信広**

ぽっぽニュース
ご報告

第212回健康講座開催
第3回大阪鉄道病院がんサロン開催
訪問看護ステーションとの交流会開催

Radiation Station
放射線治療

リハビリコラム
転倒予防について

肝炎医療
コーデイネーターの活動

地域に求められる血液診療と専門分野の研究で成果

それぞれに得意分野を持ちながらオールマイティに血液診療に取り組む医師4名と
コメディカルが連携したチーム医療体制で患者さんに寄り添う治療を実践しています。



ドクターインタビュー

医務部長、部長 **高 起良**
(こう きりゃん)

資格/日本 HTLV-1 学会評議員、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 委託費研究「HTLV-1 水平感染の動向と検査法・検査体制の整備」(三浦班) 班員、大阪府母子保健運営協議会委員 (HTLV-1 母子感染予防対策担当)

漢方診療・食事栄養管理・緩和ケアなどの支持療法も積極的に取り入れています。一方、同種造血細胞移植などのより高度な集学的治療が必要な場合は大阪公立大学病院などの提携医療機関にスムーズに引き継ぐ体制も整えています。さらに、診療の中で経験させていただいた貴重な症例については学会報告や論文発表などの研究活動を通じた情報発信にも積極的に取り組んでいます。診断から治療まで、今後もより多くの患者さんに適切な医療を受けていただけるよう信頼に応えてまいります。

—大阪鉄道病院血液内科といえば、HTLV-1 の診療拠点病院として HTLV-1 キャリア外来を設けていることも注目を集めています

私は約 20 年間 HTLV-1 の診療に携わっており、お陰さまで 2018 年に大阪鉄道病院は HTLV-1 診療拠点病院 (日本 HTLV-1 学会登録医療機関) として日本 HTLV-1 学会から認定され、HTLV-1 キャリアの方々への相談対応や ATL の診療を積極的に実践しております。

日本 HTLV-1 学会登録医療機関

JR大阪鉄道病院は HTLV-1 診療拠点病院
(日本 HTLV-1 学会登録医療機関)



—大阪鉄道病院血液内科の特徴についてお聞かせください

当院は 300 床の中規模病院で地域の基幹病院として血液疾患の患者さんに対してエビデンスに基づいた治療 (臨床試験で効果が確認された治療) を提供しています。具体的には、急性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、成人 T 細胞白血病 (ATL)、多発性骨髄腫などの血液がん、あるいは再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの種々の血液疾患に対する診療を精力的に実施しています。また、ATL の原因ウイルスである HTLV-1 (後述) の診療拠点病院としての役割も担っているのが特徴です。

—どのような体制で治療に取り組まれていますか

私が部長を務め副部長 2 人と医長 1 人の 4 人体制で、化学療法、自家末梢血幹細胞移植、分子標的療法、抗体療法やその他の新規薬剤療法などを実施しています。新薬の開発など進化が著しい血液内科において最新の治療法や検査法などの医療情報をアップデートして共有することは大前提として、患者さんひとり一人の病状に基づいて最適の医療をご提供できるよう心がけています。そんな血液診療に欠かせないのがチーム医療です。当科では医師、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、ソーシャルワーカーなどがカンファレンスなどを通じて連携を取りながら、リハビリテーション・

HTLV-1 の診療・研究拠点として

そもそも、HTLV-1 って何?・・・ご存知ないのが普通です。そこで日本 HTLV-1 学会が作成した資料『よくわかる詳しくわかる HTLV-1 (日本 HTLV-1 学会)』の一部を抜粋して解説させていただきます。



HTLV-1 感染と病気 (HTLV-1 関連疾患)

HTLV-1 に感染していても通常症状はありません。感染してから約 50 年以上の長い潜伏期間を経て難治性の血液がんである ATL を発症することがあります。但し、ATL を発症するのはキャリアの約 5% のみです。その他、HAM (ハム: HTLV-1 関連脊髄症) と呼ばれる神経の難病になることがあります。その確率はわずか 0.3% です。また、HU (エイチユー: HTLV-1 関連ぶどう膜炎) と呼ばれる目の炎症性疾患を発症する場合があります。いずれにせよ、HTLV-1 に感染していても約 95% の人は生涯このような HTLV-1 関連疾患になることはありません。

HTLV-1 の感染力と感染経路

HTLV-1 は感染力が極めて弱いウイルスです。HTLV-1 に感染した T リンパ球が生きたままの状態で大体内に入らなければ感染は起こりません。主な感染経路としては、①母子感染 (主に母乳による)、②性行為による水平感染 (性液や膣分泌液による) にほぼ限られます。

HTLV-1 に感染した T リンパ球は、乾燥、熱、洗剤で簡単に死ぬため通常の日常生活で感染することはありません。たとえ感染してもこれまでと同じように生活を送ることができます。

HTLV-1 の感染を防ぐには

① 母乳による母子感染の予防

HTLV-1 に感染しているお母さんから赤ちゃんへの感染は、主に母乳中に含まれる HTLV-1 に感染した T リンパ球が原因です。母乳からの感染を防ぐには、母乳の代わりに育児用ミルクで哺育する完全人工栄養が最も確実な方法です。母乳の授乳期間を 90 日未満にする短期母乳栄養も赤ちゃんの感染率は完全人工栄養と変わらないという研究結果も得られています。助産師さんや保健師さんのサポートが欠かせません。

② 性行為による水平感染の予防

性交渉によるパートナーからの感染は、精液や膣分泌液の中に含まれる HTLV-1 に感染した T リンパ球が主な原因です。性交渉による感染を防ぐにはコンドームの使用が有効です。

HTLV-1 とは

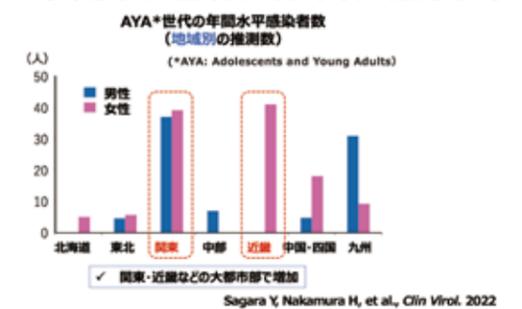
HTLV-1 とは、ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 (Human T-cell Leukemia Virus Type 1) の略です。このウイルスは、血液中の白血球のひとつである T リンパ球に感染して成人 T 細胞白血病 (ATL) を起こすウイルスであることから命名されました。HTLV-1 が発見されたのは 1980 年と比較的最近ですが、このウイルス自体は古くから人類と共存してきたものです。日本では縄文時代より前から HTLV-1 の感染があったといわれています。

HTLV-1 は T リンパ球の DNA の中に組み込まれて一生残ります。この状態を「HTLV-1 キャリア」と呼びます。最近の調査 (2020 年) では全国のキャリアは少なくとも 66 万人と推定されており決して少ない数ではありません。もともと HTLV-1 感染者は、九州などの西南日本に多いとされてきましたが、現在では関西や関東などの大都市圏でも感染者数は増加していることが明らかになっています。

都市部における HTLV-1 水平感染の増加

感染予防対策についてですが、母乳による母子感染予防対策は進んできましたが、性行為による水平感染に対する予防対策はまだ手付かずの状態です。最近の調査研究の結果、年間 3000 人以上の新たな水平感染者が発生していることが明らかになりました。さらに関西や関東などの都市部において AYA 世代と呼ばれる思春期・若年成人や 50 代女性において水平感染が増加傾向にあることがわかってきました。これに対して関連する医療機関で協力体制を築いて関西地区での HTLV-1 感染拡大を阻止するための取り組みが現在進捗中です。

HTLV-1 水平感染は大都市圏の若い世代に増加している



HTLV-1 感染: 近畿の特徴

● 関東・近畿など大都市圏の AYA 世代 (思春期・若年成人) に水平感染者が増加している

● 私は、昨年 11 月に開催された世界 HTLV デー記念講演会において「近畿における HTLV-1 感染の特徴」について発表させていただきました。その様子は、JSPFAD 学会のホームページでご覧いただけます。

2024 年世界 HTLV デー記念講演会
日時: 2024 年 11 月 10 日 (日)
14:20-15:50 (90 分)
主催: 一般社団法人 日本 HTLV-1 学会



多種多様な血液内科診療に挑む
最強の布陣

Doctor MESSAGE



最先端の診断情報を取り入れ
治療への希望を広げる

副部長 間部 賢寛 (まなべまさひろ)

資格/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本検査血液学会評議員、日本造血細胞移植学会認定医、細胞治療認定管理士

私は血液内科全般の診療に携わっていますが、ひとつ大きな研究テーマとしているのが、骨髄の細胞形態です。血液検査を担う検査技師とともに、検体を顕微鏡で観察し、血液疾患のタイプはもちろん、病型や病期までを迅速かつ正確に診断する役割で、有効な治療を導き出すための重要な役割を担っています。いかに形態異常を的確にとらえて評価し、診断に結びつけるかという能力が問われます。ふたつとして同じ細胞はなく、なかには判断が難しいものもありますが、長年にわたり数多くの検体を観察し、磨き抜いてきたスキルには自信を持っています。血液内科を支援する部門として強みになっていると自負しています。



検査技師と連携しながら学会発表や症例報告に継続して積極的に取り組んでいます。



造血器・リンパ系腫瘍のWHO分類 第5版

なお、今年度診断の基準となる「WHO 分類」が第4版から第5版に改訂されました。5年ぶりのアップデートとなり、遺伝子学的な根拠に基づきさらに細分化が進んでいます。すなわち、診断もさらに細分化され、よりの確かな治療へのマッチングが可能になったということで、血液内科治療がまた一歩進んだことを意味します。

現在は新しい分類法の全形態に基づく診断を確立し自分のものにすべく、時間を惜しみ学んでいる最中です。

このように、血液内科では治療の選択肢が年単位、月単位で増えています。副作用もかなり抑えられるようになりましたし、再発に関しても、対応できる治療法がいくつも出てきたので、昔ほど怖い病気であるというイメージは薄くなっています。

とはいえ、検査や治療は痛みや辛さを伴うこともあり、患者さんご本人の年齢や気力に応じて、おだやかに治療が進められるよう配慮するのが、私たちの重要な仕事であると思っています。そして少しでも長く発病前の生活に近い生活を送ってもらえるよう尽力していきたいと考えています。



いかに求められる治療ができるかをテーマに

医長 曾我部 信広 (そがべのぶひろ)

大学病院や一般病院で経験を積み、当院に赴任して3年になります。私が血液内科を志した頃には、すでに血液疾患の多くの治療法が確立されていました。「昔は打つ手がなかった」という話を聞いてもそんな悲壮感をおぼえることはほとんどないので、実感が湧きません。今はあって当たり前豊富な選択肢のなかから、いかにその患者さんにふさわしい治療法をフィットさせていくかに重きが置かれていると思います。そのためには、勤める病院の血液内科の医療資源と患者さんの状態を把握し、的確に判断できる力が求められます。

特に当院の場合は、他の疾病が重なった高齢期の患者さんが多くを占めます。もちろんガイドラインに沿った治療を基本としつつも、薬の量や治療のペースなどにも細やかな配慮が必要になってきます。どういった治療がご本人にとって一番いいのかをご家族とも相談しながら一緒に納得いただける選択をしていくことが、医師として大きな仕事ではないかと思っています。

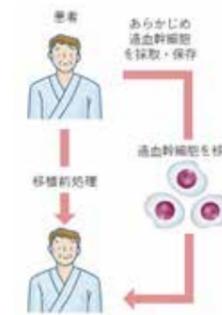
理想とするのは、QOL をできる限り保ち血液疾患で寿命を縮めない治療です。今後も患者さんと向き合うことを大切に、先輩医師やチームのみなさんとの連携しベストを尽くしていきたいと思っています。

●自家末梢血幹細胞移植とは

抗がん剤治療の補助的治療として選択されます。

<採取法>

血液細胞(赤血球、白血球、血小板)の元になる細胞は主として骨髄に存在していますが、白血球を増やす薬を投与するなど特殊な状況下で血液中に流れ出します。これを末梢血幹細胞と呼び、成分献血を同じ体外循環によって採取することができます。



<移植の目的>

抗がん剤を大量に投与し、ガン細胞を根絶あるいは限界まで減らしたのちに、保存しておいた末梢血幹細胞を戻す(移植する)ことで、抗がん剤でダメージを受けた造血機能を回復させます。

「自家造血幹細胞移植」を立ち上げ
血液疾患への対応力を高める

副部長 南野 智 (なんのさとる)

資格/日本血液学会認定血液専門医・指導医、臨床研修指導医講習会修了、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、日本骨髄バンク調整医師、難病指定医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医



長く勤務していた大阪公立大学附属病院から、2021年4月に赴任してきました。期待された役割のひとつが、長らく当院で行っていなかった自家移植の体制の確立です。

一般的に、血液疾患で「移植」と聞くと、ドナーから提供された造血幹細胞を用いる「同種移植」を思い浮かべる人が多いと思いますが、「自家移植」はあらかじめ患者さん自身の造血幹細胞を採取し凍凍保存しておいて治療のサポートに用いる方法です。正確には「自家末梢血幹細胞移植」といいます。

造血幹細胞を採取する血液成分分離装置は当院に用意されていたので、まずは治療にかかわるスタッフと基礎的な情報を共有した上で移植チームを立ち上げ、安全確実に実施するための準備を進めました。初めて当院で自家移植を実現したのは、2021年12月のことです。以来、年平均2例ほどではありますが、治療の選択肢のひとつとして有効に活用しています。今後も、スタッフが入れ替わっても変わらない環境で安定して継続できるよう、マニュアルやチェックリストの確認と修正を繰り返しながら行っていく考えです。

「同種移植」に関しては、基本的に大学病院クラスの病院でしかできないので、病診連携先にご紹介することになります。大学病院時代は「同種移植」の経験を豊富に積んでいたこともあり、治療をイメージし調整しながら適切なタイミングで引き継げるようにしています。

当院で扱う血液疾患は急性がほとんどなので、特に診断後は患者さんも十分に考える時間がないほど、スピーディな対応が必要になることもあります。そんななかでも、できる限り患者さんやご家族とコミュニケーションを取りながら、少しでも安心して疾患とつきあっていただけるよう、治療に取り組んでまいります。

主な検査・治療実績抜粋 2023年度
外来患者数 35.6人(件数)/日
入院患者数 22.9人(件数)/日
平均在院日数 17.4日

＜非ホジキンリンパ腫＞				
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	152	141	146	107
るほう性リンパ腫	58	63	32	38
成人T細胞白血病/リンパ腫	72	54	49	34
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	1	1	0	0
末梢性T細胞リンパ腫	6	12	12	3
MALTリンパ腫	8	1	6	4
マンツル細胞リンパ腫	8	1	6	3
リンパ形質細胞性リンパ腫	6	4	2	4
その他のB細胞リンパ腫	7	6	20	8
慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫	5	4	3	2
上記以外の非ホジキンリンパ腫	13	14	19	5

＜急性白血病 MDC 名称(詳細内容)＞				
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
急性骨髄性白血病	16	49	94	50
急性リンパ性白血病	1	13	6	10
＜その他疾患 MDC 名称＞				
骨髄異形成症候群	47	26	18	12
多発性骨髄腫	50	41	38	59
慢性骨髄性白血病	4	7	3	0
特発性血小板減少性紫斑病	6	11	8	4
再生不良性貧血	11	13	4	5
上記以外の血液疾患	22	94	59	74
感染症	29	33	34	19
その他の疾患	20	39	18	17

充実する肝炎医療コーディネーターの活動

当院ではウイルス性肝炎の周知と適切な治療のための取り組みとして、2023年度に、肝炎医療コーディネーターの資格を持つ消化器内科肝臓専門医、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）らによる「肝炎チーム」が発足しました。さらに今年度からは新たに薬剤師、臨床検査技師、医師事務のメンバーがチーム入りし、多職種によるさらに充実した活動を行っています。



肝炎医療コーディネーターの活動目的は「肝硬変・肝がんへの移行者を減らす」こと

肝疾患のなかでも、ウイルス性肝炎は治療によって肝硬変や肝がんへの進行を抑制できることが明らかになっています。肝炎医療コーディネーターは、肝炎患者さんが適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関、地域や職域の関係者間の橋渡しを行う役割を担っています。肝炎ウイルス検査の受検、検査陽性者の早期の受診、肝炎患者の継続的な受療の促進、行政や医療機関によるフォローアップが円滑に行われるようにすることを役割とし、ステップに応じた対策に取り組んでいます。

<肝炎対策のステップ>



目標／肝硬変・肝がんへの移行者を減らす

<新メンバーからのメッセージ>



薬剤師 吉本 佐紀 調剤薬局との連携シート作成

薬剤師としてチームで最初に取り組んだ課題は、調剤薬局といかに連携し外来患者さんをフォローアップしていくかということでした。というのも、抗ウイルス薬は飲み続けるとウイルスが消失しますが、途中でやめてしまうと効果がなくなる極端な薬です。調剤薬局にその点を把握していただいた上で、患者さんにも十分にご説明して薬をお渡しすることが理想です。しかし、従来の処方箋のみでは、調剤薬局に詳細な情報を届けることができません。そこで、情報共有のために専用のシートを作成することになりました。

看護師や医師とも協議して完成したシートは、治療の目安期間や肝炎のタイプを情報共有できるようになっているとともに、調剤薬局の窓口で患者さんとお話されたときに、どの程度理解されているかを書き込みファックスでフィードバックしていただく機能も持たせています。また、今後は順守状況のよくない患者さんがいらっしやった場合にも、再度シートを出力して確認し直すなど、フレキシブルな活用ができればと思っています。

現時点でまだ運用実績はないのですが、もともと調剤薬局と当院薬剤部は薬業連携によっては必要なところは細かに情報共有を行うようにしてきましたので、そのノウハウを活用することにより、スムーズに運用できると思います。肝炎医療コーディネーターという役割は、とても意義ある活動だと実感しています。少しでも多くの方に知っていただけたらと思います。



臨床検査技師 萩原 祐至 ステップ1から2への橋渡し役を全う

私の役割は、院内の肝炎ウイルス検査によって陽性が出た患者さんをピックアップし、チームと情報共有することです。いわば、ステップ1から2の橋渡し役です。院内で他の疾患の治療をしている患者さんの初めての検査、あるいは手術前検査で発覚することもあるので、毎月慎重にチェックすることが重要です。

私自身、血液検査を専門としており、肝炎ウイルスについては勉強会などで多少知識は持っていましたが、今回あらためて勉強して、漏れなく陽性患者さんを拾い上げ、情報をお伝えすることがいかに重要かを知りました。日々の業務としての検査はもちろんのこと、肝炎医療コーディネーターの視点でその先の治療まで想像力を持ちながら行動することが大事だと思います。もちろんダブルチェック徹底して、ミスのないよう慎重にデータ提供することを徹底しています。

肝炎についての情報も日々アップデートされているので、勉強と情報共有を怠ることなく、気を引き締めてチームに貢献してまいります。

今後も肝炎医療コーディネーターの活躍にご期待ください！

リハビリコラム 理学療法士が解説！

リハビリテーション室

転倒予防指導士が解説！

転倒予防について学ぼう② ～種類と頻度～

さまざまな危険につながる「転倒」。今回は、その実態について詳しくご紹介します。



ポイント

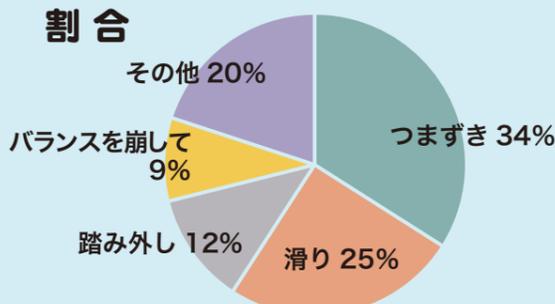
転倒経験者の1年以内の再転倒率=56.6%
まず転倒を経験しないことが重要

転倒の種類

転倒は大きく分類すると「つまずき」「滑り」「踏み外し」「バランスを崩して」など、足元のトラブルが原因で発生することがほとんどです。「その他」は知らないうちにといった事象を含みます。

転倒の頻度

家で暮らす65歳以上の高齢者の3人に1人は1年間に1回以上転倒するといわれています。さらに転倒経験者は、1年以内に再転倒する可能性が高いことがわかっています。



データ出典元：理学療法ハンドブック

転倒するとどうなる？

内閣府の調査によると、転倒した人のうち、およそ5%が骨折に至ります。その数、1年間に約61万人

転倒・骨折は要介護に移行するきっかけにもなってしまいます。

まずは「転倒しない」配慮が生活のあらゆる場面で必要です。



※当院では外来リハビリテーションは受け付けておりません。

Radiation Station

放射線部門

頑張るあなたに 放射線治療 という選択肢を

治療回数の少ない 乳腺放射線治療

通院の負担を軽減するため、治療回数の少ない放射線治療も行っています。

16回または20回（追加照射有りの場合）

頑張るあなたの

外来通院が可能

治療時間は10分程度と短く、外来通院で行えることも多いためライフスタイルを変えずに治療を行えます。

支えになりたい